

小学校外国語活動 5 年生部会

1 はじめに

いよいよ学習指導要領完全実施が来年度に迫り、これによって、すべての小学校において第 5 学年、第 6 学年でそれぞれ 3 5 時間の外国語活動が実施されることになる。岐阜県内においては、以前より総合的な学習における国際理解教育の一環として英語活動が実践されてきた。また、研究開発学校を中心に新たな試みが提案されたり、地域の中心となる学校が実践を広める役割を担ったりしながら、今日的課題や学校の実態をふまえた活動づくりに多くの学校が取り組んでいる。しかしながら、長い間 ALT が中心となって実践をしてきたため、学級担任がどのように活動を進めていけばよいのかと悩む教師、やらねばと思いながらも具体的な活動のイメージがつかめず不安な教師がいるのも現実である。

本部会では、様々な位置付けのもとで実践してきた外国語活動を基盤にしながら、外国語活動で何を大切にし、どう進めていくべきかを学び合うとともに、その成果を学校や地域で広め、県内のすべての小学校で充実した活動が展開されることを願い、提案することとした。

私たちが日々向き合っている児童は、柔軟な発想や思考力をもち、新たなものに触れ、学ぶことを楽しみ、よりよく生きたいという夢をもっている。外国語活動を通して、外国語に触れ日本語を含む様々な言葉の面白さや、他者とかがわり合うことを学ぶ機会を与え、心豊かな児童に育てていきたい。

2 昨年度までの研究より

中英研では、昨年度までに英語ノートの題材を生かした単元指導計画を 10 単元以上作成してきた。(Ways 2009, 2010 に掲載) 英語ノートで取り上げられている題材は、これまでも多くの学校で実践されてきたものが多く、メンバーの先生方の実践やアイデアが盛り込まれた指導計画を作成することができた。目標や評価については、学習指導要領に掲げられている目標等と整合性をもたせるよう、毎回熱い議論が交わされた。

すべての題材を網羅することはできていないが、小学校における外国語活動に求められているものや期待できることを再確認することができた。

3 今年度の研究の方向

今年度は、「5 年生部会」「6 年生部会」を設け、小学校の外国語活動の入口と出口に焦点をあて、各単位時間の指導案を作成した。

(1) はじめての外国語活動

5 年生になってはじめて外国語活動に取り組む児童に、世界にはいろいろな言葉があること、その背景にはそれぞれの文化、歴史があることを体験的に理解させていきたい。外国語と言えば英語、というイメージをもたせるのではなく、活動を通して様々な言語(英語ノート 1 Lesson 1 では「あいさつの言葉」)に触れ、それらを尊重しようとする態度を育てたい。

また、はじめて触れる言語，活動であることから，児童に心的負担を与えないよう，活動や教材を工夫しながら教師や友だちとやりとりする楽しさを十分感じさせたい。そして，活動中の児童の良い姿，すなわち興味をもって話を聞こうとする姿や誰とでもコミュニケーションを図ろうとする積極的な姿等を十分に価値付け，今後の活動の方向付けをしていくことが重要である。

外国語活動では，ALT との Team Teaching を行うこともある。授業を進める学級担任は，積極的に ALT と関わり，異なる言語や生活習慣をもつ人ともコミュニケーションを図ろうとする姿勢を児童に示していきたい。

(2) 具体的な活動

英語ノート Lesson 1 「世界の『こんにちは』を知ろう」は，外国語活動に初めて取り組む児童が世界の国々のあいさつに触れることを通して，世界には様々な言語があり，どの言語もそれらを使う人々もかけがえのないものであることに体験的に気付く題材である。児童が行う活動では，笑顔であいさつをすること，自分の名前を伝えること，握手をすることなどを教師が示し児童に真似してやってみるように促し，どの言語を使用する場合にも人との出会いやコミュニケーションを図ろうとすることが大切にされていることを指導していく。

Lesson 2 「ジェスチャーをしよう」は，ジェスチャーを交えて話すことで，互いによりよく理解し合えることに児童が気付くことができる題材である。話し手の気持ちは，言葉だけでなくその表情やジェスチャーからも伝わってくるものである。様々な活動を通して，ジェスチャーを交えて話すことよさに気付き，今後の活動でもジェスチャーや表情もともなって相手に伝えようとする態度や，言葉はもとよりジェスチャーや表情からも相手が伝えようとしていることを理解しようとする態度を身に付けさせたい。児童が行う活動では，あいさつと一緒によく使用される How are you? - I'm fine. のやりとりを体験し，自分の感情や気分，体調を表す表現に慣れ親しむ。

単元を通してコミュニケーションの素地を育むことができるよう，「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に関する気付き」の3つの観点で各単位時間のねらいや活動を吟味した。各単位時間においては，重点を置く観点を設定し，指導・評価が行うことができるように具体的な指導・援助，評価の言葉を明確にした。

中学校英語科への円滑な接続を考慮し，中学校での学習活動を見据え，小学校における外国語活動で大切にしたいことや，活動及び指導の意図を「中学校へつなげるポイント」の項に明確にした。